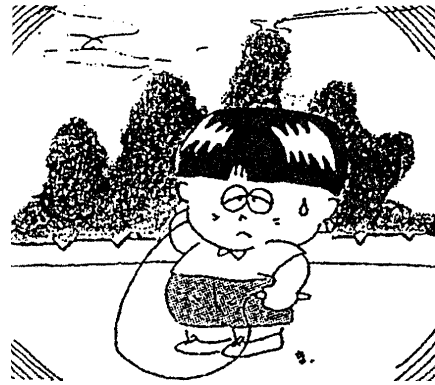


みんなの童話

健太に異変が起きた



健太のなやみを聞いたばあちゃん、**「じゃ三日間、これをまくらの下にして寝てごらん。人に気づかれないうちにね」**と、小さな封筒を健太に渡しました。健太は絶対にそつすると約束しました。

その夜、健太は教えてもらったようにして寝ました。

次の日の体育は健太の大きらいなマラソンでした。五年生は運動場五周、健太はいつもびり、それも半周もおくれてのびりでした。太つてで走れんわ、それがきらいになつた理由でした。

でも今日はちがいます。時間を

待っていました。昨夜ゆめを見たからです。それは先頭で走っているゆめでした。ところがとちゅうで目がさめました。だからゆめの続きが気になり、よし、走つてみようと思つていたので。

「よっい、スタート」先生の号令で走りました。けんめいに走りました。ゆめでは一位になれるはずだそう思つて必死に走りました。結果はやつぱりびりでした。

でもみんなから**「三メートルしかはなれていないびりでした。よくがんばつた。その気になれば走れるじゃないか」**、先生がほめてくれました。ゆめとはちがつたが健太は満足でした。

その夜健太は大失敗、寝小便をしちゃいました。ゆめのせいだ、健太はゆめをうらみました。それは理科の授業のゆめでした。

先生が健太に聞きました。**「体重の3分の2は水分だが、水分でなんだ」**、**「じゃ、雨は、」**、**「・・・」**。**「花には何をかける」**、答は**「水だ」**健太にはわかつてい

たが声が出ませんでした。するとだれかが**「健太の小便だ」**って、大わらいました。健太が寝小便に気がついたのはその時でした。

二期も今日が最後、先生から**「少し運動するといいな。毎日、かけ足かなわとびをやつたらどうだ。体が軽くなるぞ」**と言われ、通知表をもらいました。マラソンはほめられたが、通知表の体育はやつぱりだめでした。

その夜も封筒をまくらの下にして寝ました。本当は封筒の中を見たくつたのですが、約束は守るべきだ、それに今夜一晩だ、そう思つてがまんしました。

真夜中、ゆめに一人の男が現れ健太を外に連れ出しました。星もない暗やみの中を健太は男に引きずられるように歩きました。

暗かつた空が明るくなつてきました。**「見る」**、男が指さしました。やせた動物たちがえさを探していました。と、草むらに一頭の動物を見つけたようです。

見つけられた動物はまるまると太っていました。必死にげましても太つていてにげてもにげてもにげきれず、やせた動物たち

につかまつてしまいました。**「見たろ、あの太つた動物がお前だ」**、男はそう言うつとすつと、すがたを消してしまいました。

朝、目がさめた健太は、ゆめを思い出してぞつとしましたが、ばあちゃんとの約束の三日が過ぎたのにほつとしました。

健太はわくわくしながら封筒を開きました。ところが中には便せんが一枚入つていただけでした。

二、三日過ぎたころから健太に異変が起きました。いやがつていた運動を始めたのです。かけ足になわとび、それにスポーツクラブまで行くつとゆうのです。父さんも母さんも首をかしげましたが、ばあちゃん**「どんなゆめを見たのかな」**って、わらつていました。

健太をこんな気持ちにさせたのは何だつたでしょうか**「・・・」**。便せんには何が書かれていたのでしようか**「・・・」**。そして健太のなやみとは**「・・・」**。それは作者にもわかりません。

阿久比創作童話の会

寺沢正美

「しろやま」講師